

花巻市  
障がい福祉に関するアンケート調査  
調査結果報告書（抜粋版）

令和3年3月

# 目 次

## I 調査の概要

- (1) 調査の目的・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
- (2) 調査の対象・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
- (3) 調査の方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
- (4) 調査の実施時期・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
- (5) 配布・回収の結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
- (6) 報告書の表記及び注意点について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4

## II 調査結果

### 障がい者

- (1) 障がいのある方に対するの周囲の理解・・・・・・・・・・・・・・ 5
- (2) 障がい者への地域の理解を深めるために必要なこと・・・・・・・・ 6
- (3) 相談しやすい体制を作るために必要なこと・・・・・・・・・・・・ 7
- (4) 障がいのある人が働くために必要なこと・・・・・・・・・・・・・・ 8
- (5) 情報の入手先・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9
- (6) 相談しやすい体制を作るために必要なこと・・・・・・・・・・・・ 10
- (7) 主に世話をしてくれる方・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11
- (8) 主に世話をしてくれる方の年齢

### 障がい児

- (1) 障がい者への地域の理解を深めるために必要なこと・・・・・・・・ 12

## (1) 調査の目的

本調査は、令和3年度から5年度を計画期間とする「第6期花巻市障がい福祉計画及び第2期花巻市障がい児福祉計画」を策定するにあたり、障がい者の日常生活の状況、障がい福祉施策に関する意見などをうかがい、計画づくりの参考資料とし活用するために実施しました。

## (2) 調査の対象

調査対象については、令和2年8月1日現在、花巻市に住む障がい者手帳所持者及び自立支援医療受給者、18歳未満の障がい児福祉サービス利用者としてしました。詳細は以下の通りです。

調査対象		サンプル数
障がい者手帳所持者 ■身体障がい者手帳 ■療育手帳 ■精神障がい者保健福祉手帳	①障がい者	2,000人
	②障がい児	171人

※サンプルについては、対象者の中から年齢・男女・居住地区等の構成比を考慮した上で、層化無作為抽出法により抽出。

## (3) 調査の方法

郵送による配布・回収

## (4) 調査の実施時期

令和2年8月～9月

## (5) 配布・回収の結果

	配布数	回収数【率】	無効回答数	有効回答数【率】
①障がい者	2,000件	973件 【 48.7% 】	32件	941件 【 47.1% 】
②障がい児	171件	90件 【 52.6% 】	2件	88件 【 51.5% 】

※無効回答数は白紙またはそれに準ずるものと、集計開始後に到着のもの。

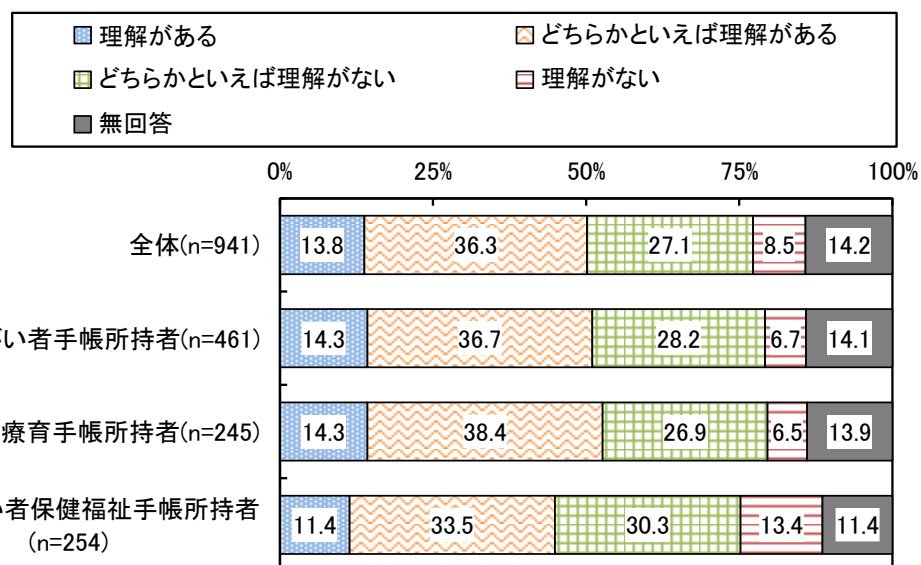
## (6) 報告書の表記及び注意点について

1. 回答は、各質問の回答該当者数を基数とした百分率(%)で示しています。小数点第2位を四捨五入しているため、比率の合計が100.0%にならない場合があります。
2. 複数回答を許している回答項目については、その項目に対して有効な回答をした者の数を基数として比率算出を行っていますので、回答比率の合計は100.0%を超える場合があります。
3. 説明文及びグラフで、選択肢の語句を一部簡略化して表しています。
4. グラフでは、その設問に対して回答することのできる対象者数を「n」と表記し、その数を表しています。

## (1) 障がいのある方に対するの周囲の理解

障がい者

問31 障がいのある方に対するの周囲の理解について、どのように感じていますか。  
(1つに○)



障がいのある方に対するの周囲の理解については、全体では「どちらかといえば理解がある」が36.3%で最も多く、以下、「どちらかといえば理解がない」が27.1%、「理解がある」が13.8%、「理解がない」が8.5%と続いています。

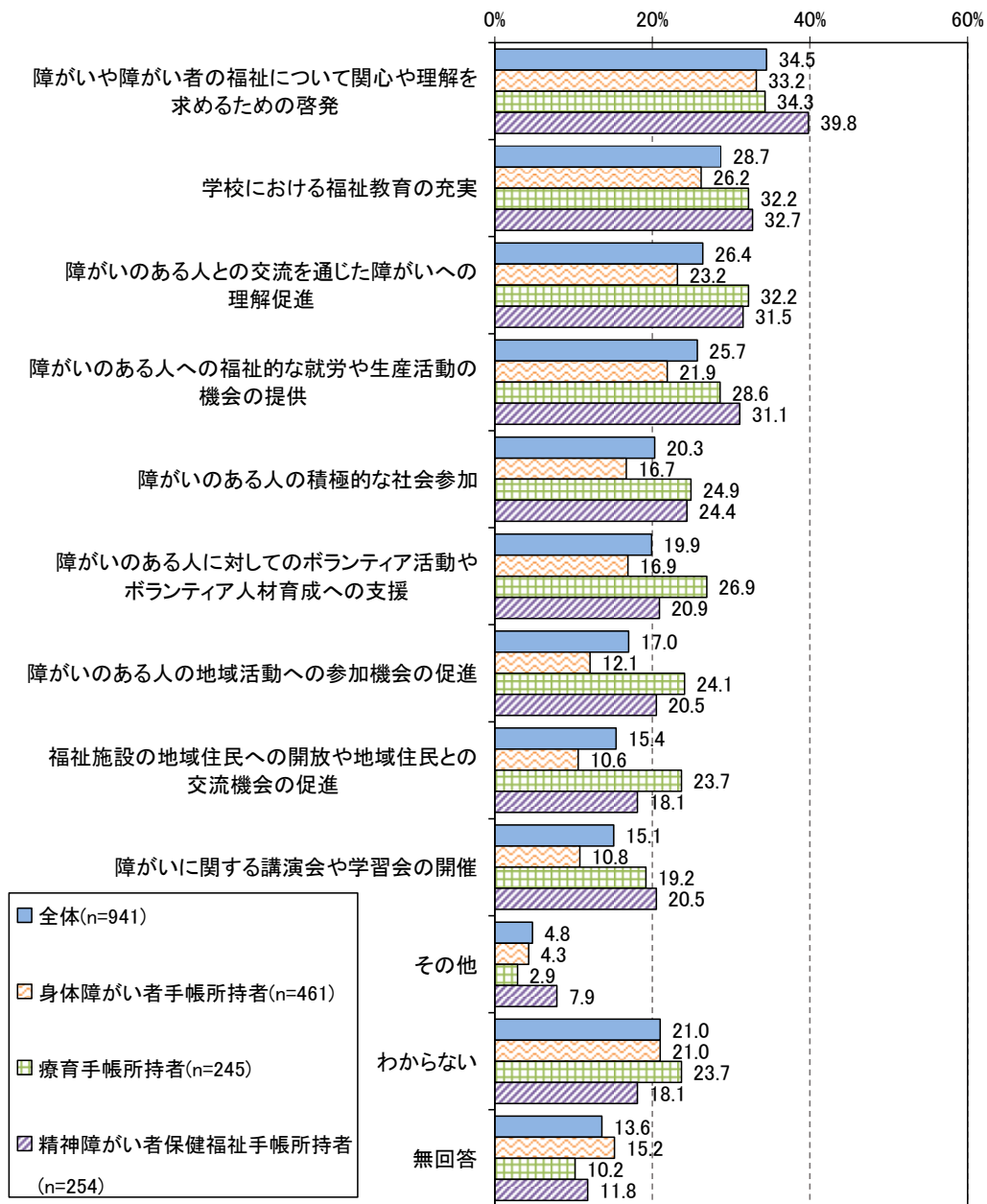
障がい別に「理解がある」の回答割合をみると、身体障がい者手帳所持者と療育手帳所持者が共に14.3%、精神障がい者保健福祉手帳所持者が11.4%となっています。

また、「理解がない」の割合は、精神障がい者保健福祉手帳所持者が13.4%で最も多くなっています。

(2) 障がい者への地域の理解を深めるために必要なこと

障がい者

問32 地域の方が、障がいのある方を理解するために、何が必要だと感じていますか。  
(あてはまるものすべてに○)



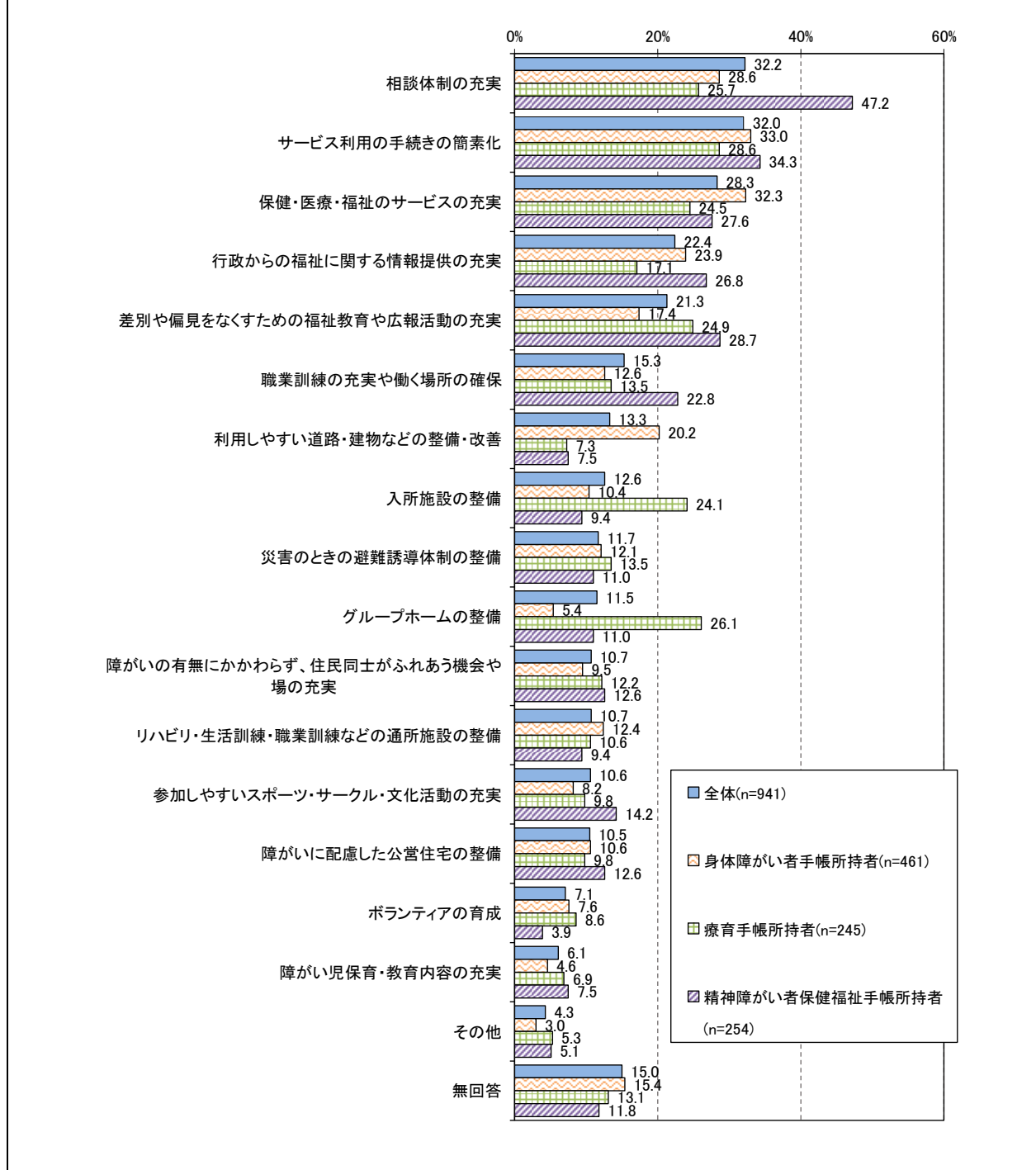
地域の方が、障がいのある方を理解するために必要なことでは、全体では「障がいや障がい者の福祉について関心や理解を求めるとの啓発」が34.5%で最も多く、以下、「学校における福祉教育の充実」が28.7%、「障がいのある人との交流を通じた障がいへの理解促進」が26.4%、「障がいのある人への福祉的な就労や生産活動の機会の提供」が25.7%などと続いています。

障がい別にみると、すべての手帳所持者でも「障がいや障がい者の福祉について関心や理解を求めるとの啓発」が最も多い回答となっています。

(3) 住みなれた地域の中で安心して生活ができるために必要なこと

障がい者

問33 障がいのある方が住みなれた地域の中で安心して生活ができるまちをつくるために、どのようなことが必要だと考えますか。(〇は3つまで)



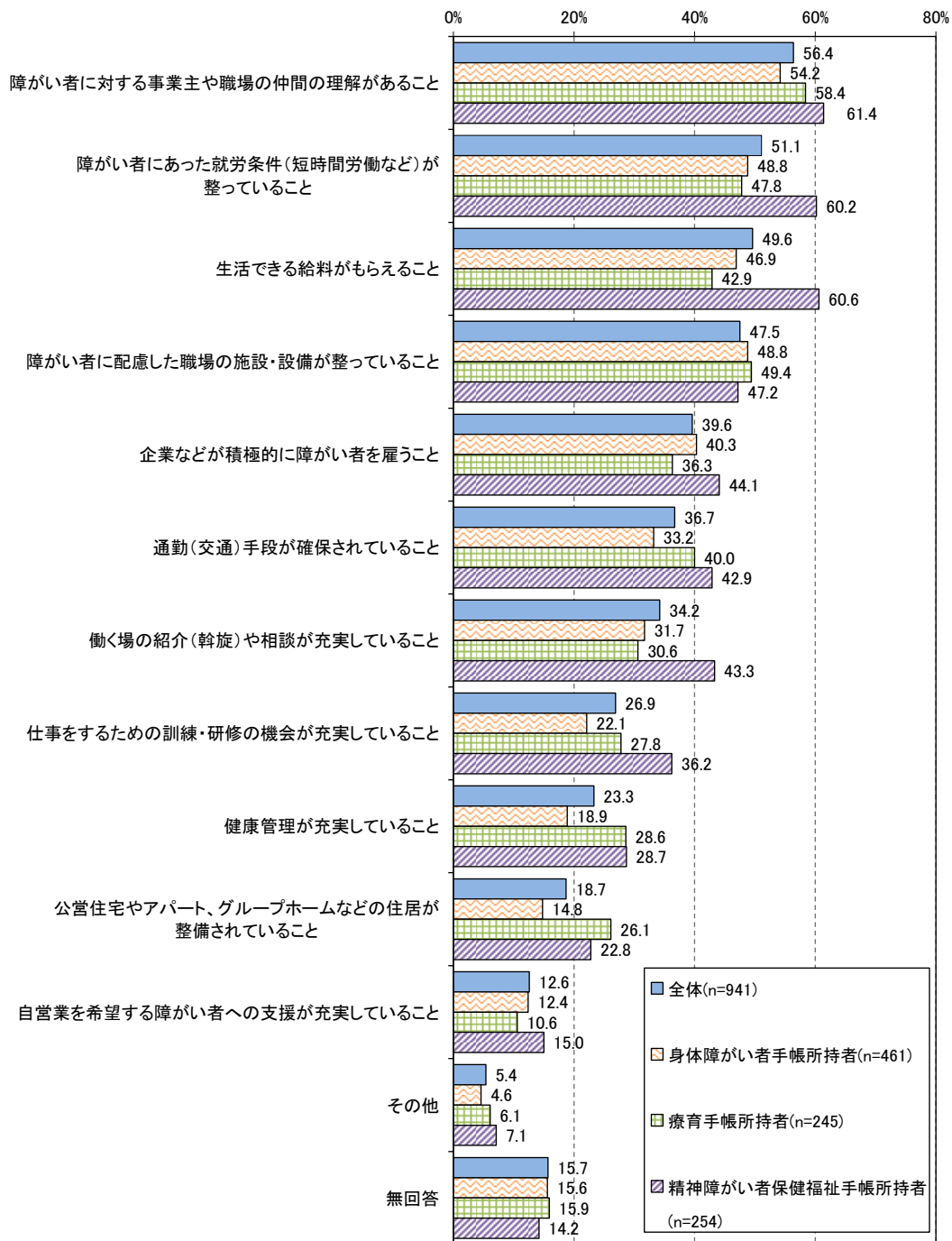
障がいのある方が住みなれた地域の中で安心して生活ができるまちをつくるために、どのようなことが必要かについては、全体では「相談体制の充実」が32.2%で最も多く、以下、「サービス利用の手続きの簡素化」が32.0%、「保健・医療・福祉のサービスの充実」が28.3%、「行政からの福祉に関する情報提供の充実」が22.4%、「差別や偏見をなくすための福祉教育や広報活動の充実」が21.3%などと続いています。

障がい別にみると、身体障がい者手帳所持者と療育手帳所持者では「サービス利用の手続きの簡素化」、精神障がい者保健福祉手帳所持者では「相談体制の充実」が最も多くなっています。

(4) 障がいのある人が働くために必要なこと

障がい者

問22 障がいのある方が働くには、どのようなことが必要だと思いますか。(あてはまるものすべてに○)



障がいのある人が働くために必要なことでは、全体では「障がい者に対する事業主や職場の仲間の理解があること」が56.4%で最も多く、以下、「障がい者にあつた就労条件(短時間労働など)が整っていること」が51.1%、「生活できる給料がもらえること」が49.6%、「障がい者に配慮した職場の施設・設備が整っていること」が47.5%、「企業などが積極的に障がい者を雇うこと」が39.6%などと続いています。

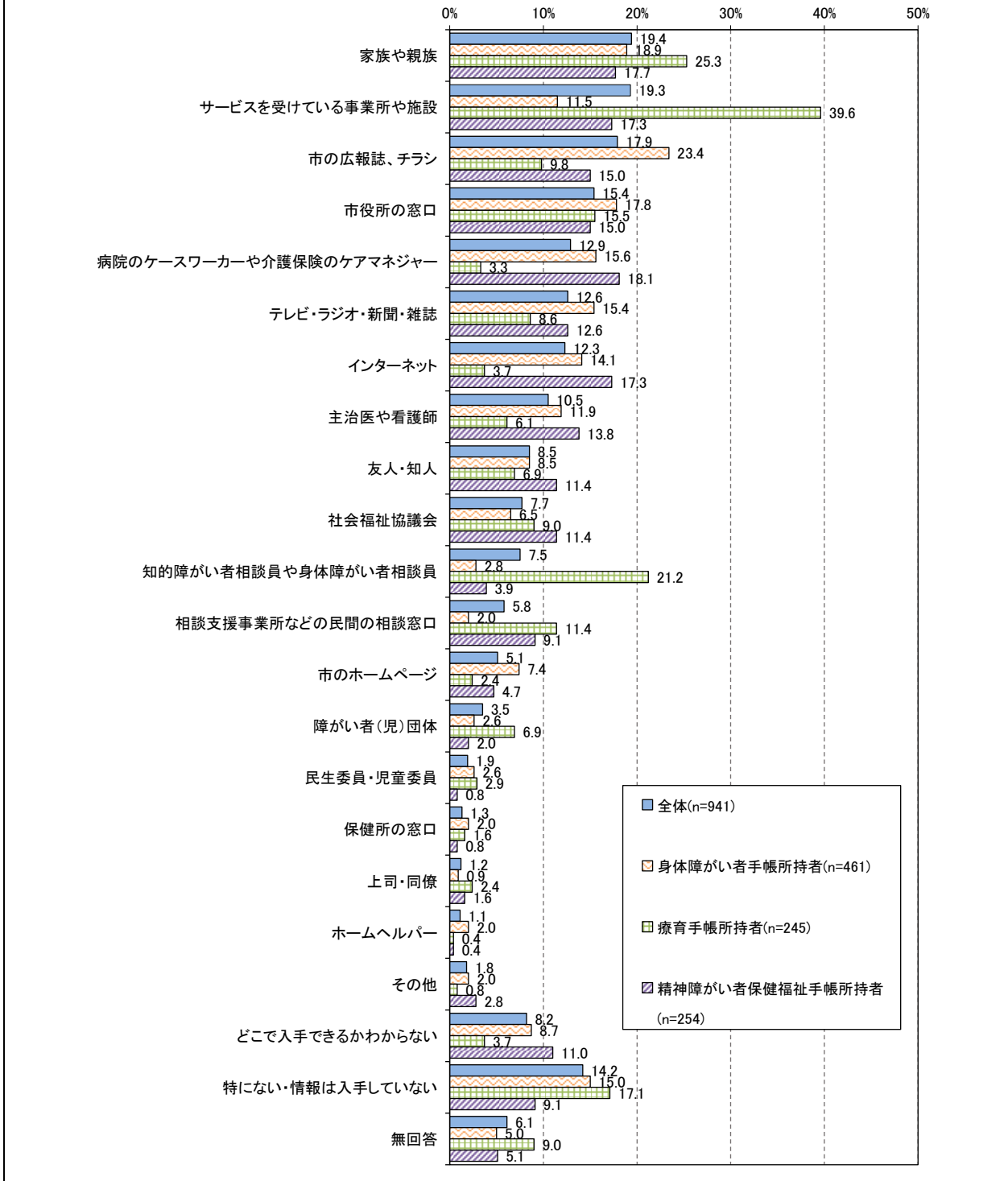
障がい別にみると、すべての手帳保持者でも「障がい者に対する事業主や職場の仲間の理解があること」が最も多い回答となっています。



(5) 情報の入手先

障がい者

問26 あなたは、福祉サービスに関する情報をどこから入手していますか。(あてはまるものすべてに○)



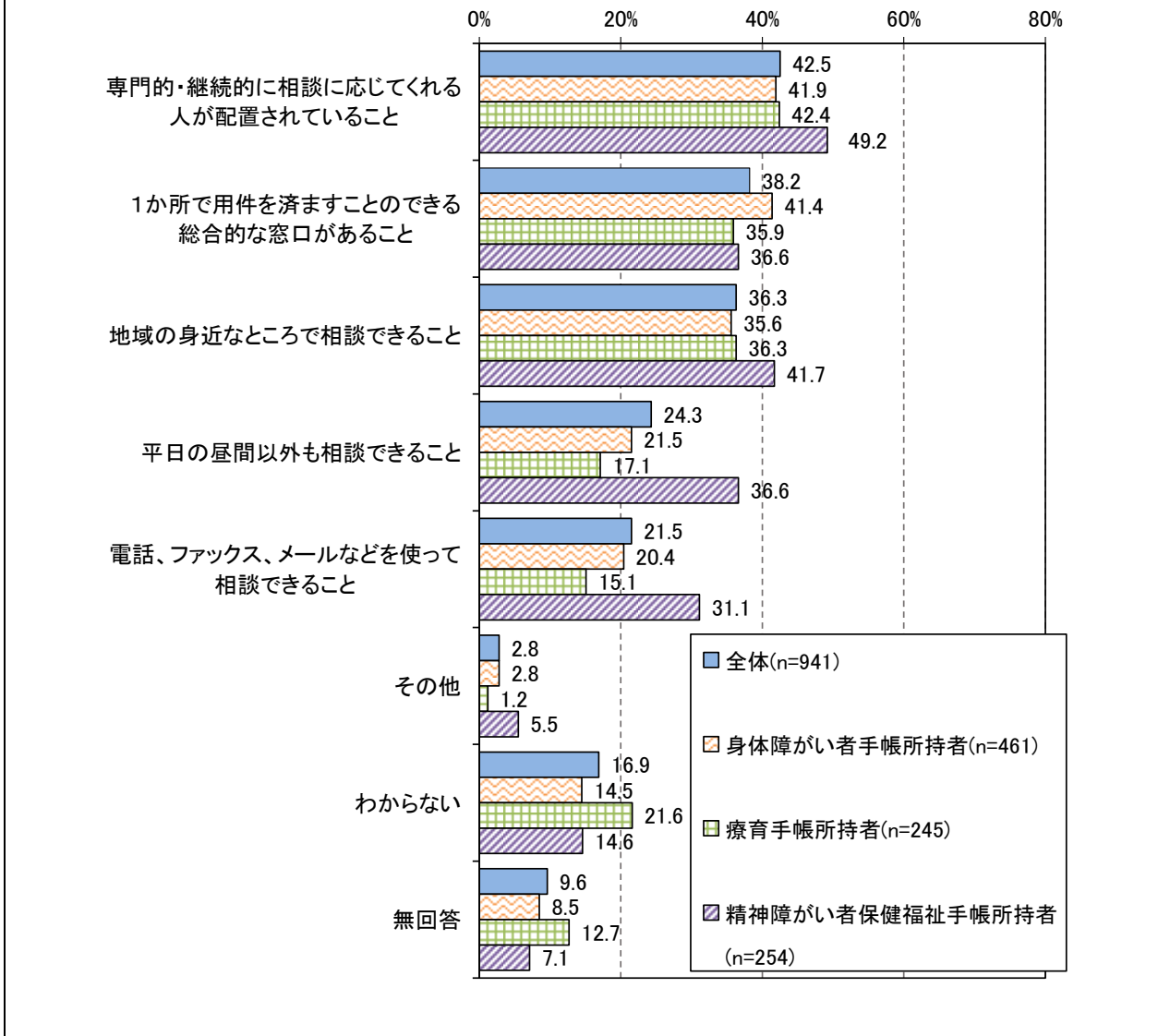
情報の入手先については、全体では「家族や親族」が19.4%で最も多く、以下、「サービスを受けている事業所や施設」が19.3%、「市の広報誌、チラシ」が17.9%、「市役所の窓口」が15.4%、「特にない・情報は入手していない」が14.2%などと続いています。

障がい別にみると、身体障がい者手帳所持者では「市の広報誌、チラシ」、療育手帳所持者については「サービスを受けている事業所や施設」、精神障がい者保健福祉手帳所持者については「病院のケースワーカーや介護保険のケアマネジャー」が最も多い回答となっています。

(6) 相談しやすい体制を作るために必要なこと

障がい者

問25 福祉サービスについて相談しやすい体制を作るために、どのようなことが必要だと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

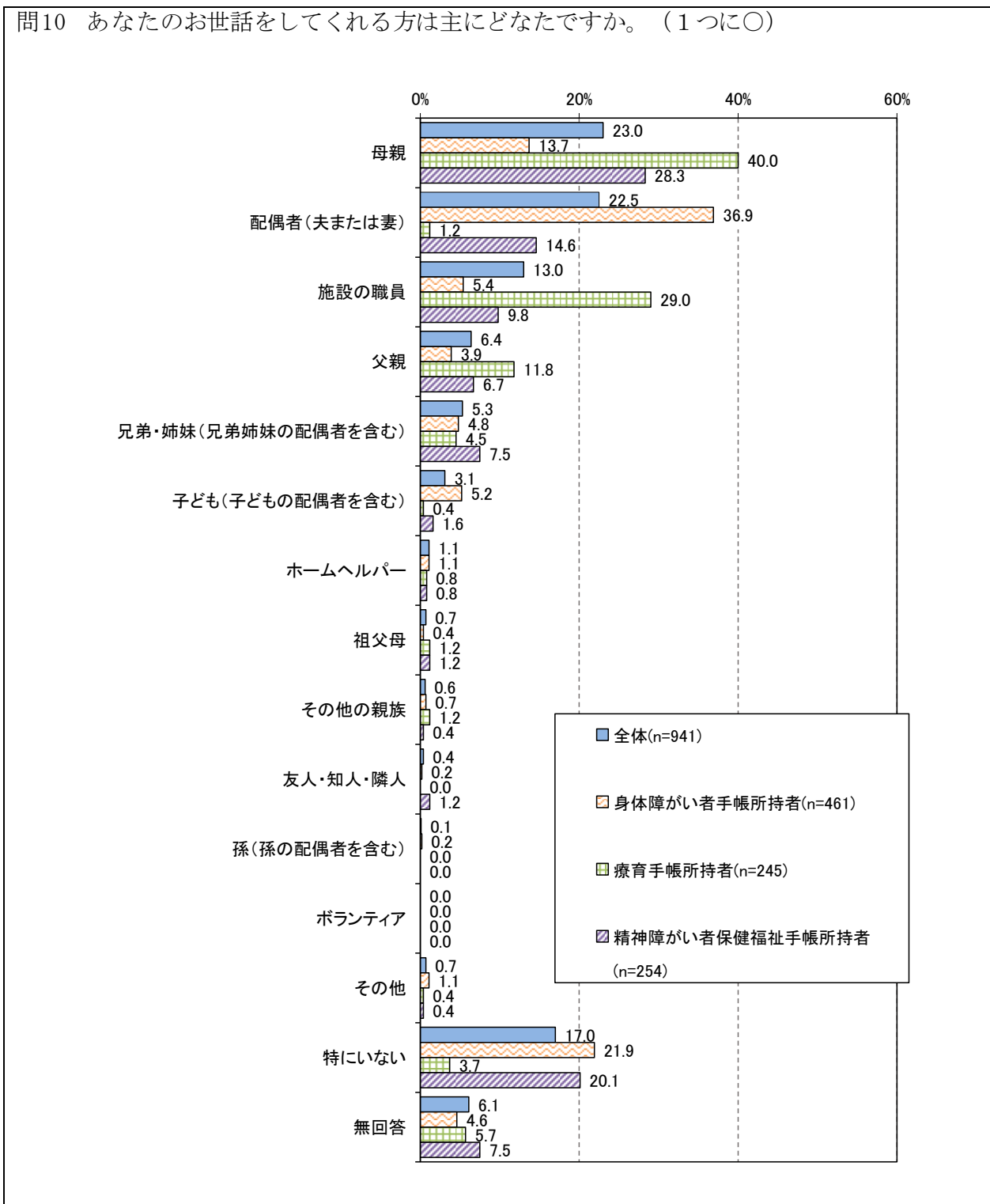


福祉サービスについて相談しやすい体制を作るために、どのようなことが必要かについては、全体では「専門的・継続的に相談に応じてくれる人が配置されていること」が42.5%で最も多く、以下、「1か所で用件を済ますことのできる総合的な窓口があること」が38.2%、「地域の身近なところで相談できること」が36.3%、「平日の昼間以外も相談できること」が24.3%、「電話、ファックス、メールなどを使って相談できること」が21.5%と続いています。

障がい別にみると、すべての手帳所持者でも「専門的・継続的に相談に応じてくれる人が配置されていること」が最も多い回答となっています。

(7) 主に世話をしてくれる方

障がい者



主に世話をしてくれる方について、全体では「母親」が23.0%で最も多く、以下、「配偶者(夫または妻)」が22.5%、「施設の職員」が13.0%、「父親」が6.4%などと続いています。

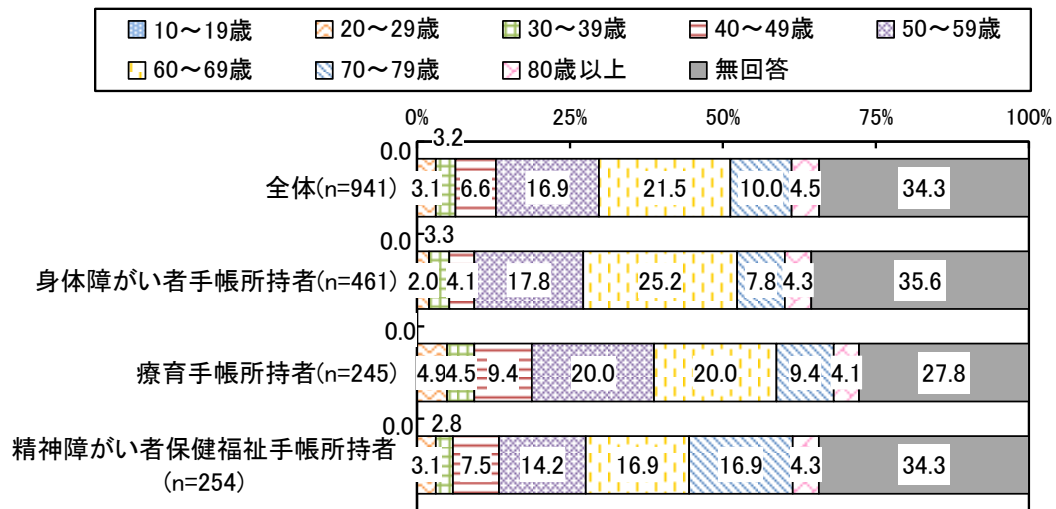
一方で、「特にいない」という回答も17.0%ありました。

障がい別にみると、身体障がい者手帳所持者では「配偶者(夫または妻)」、療育手帳所持者、精神障がい者保健福祉手帳所持者では「母親」が多くなっています。

(8) 主に世話をしてくれる方の年齢

障がい者

問11 問10で答えた「主に世話をしてくれる方」の年齢を教えてください。(数字を記入)



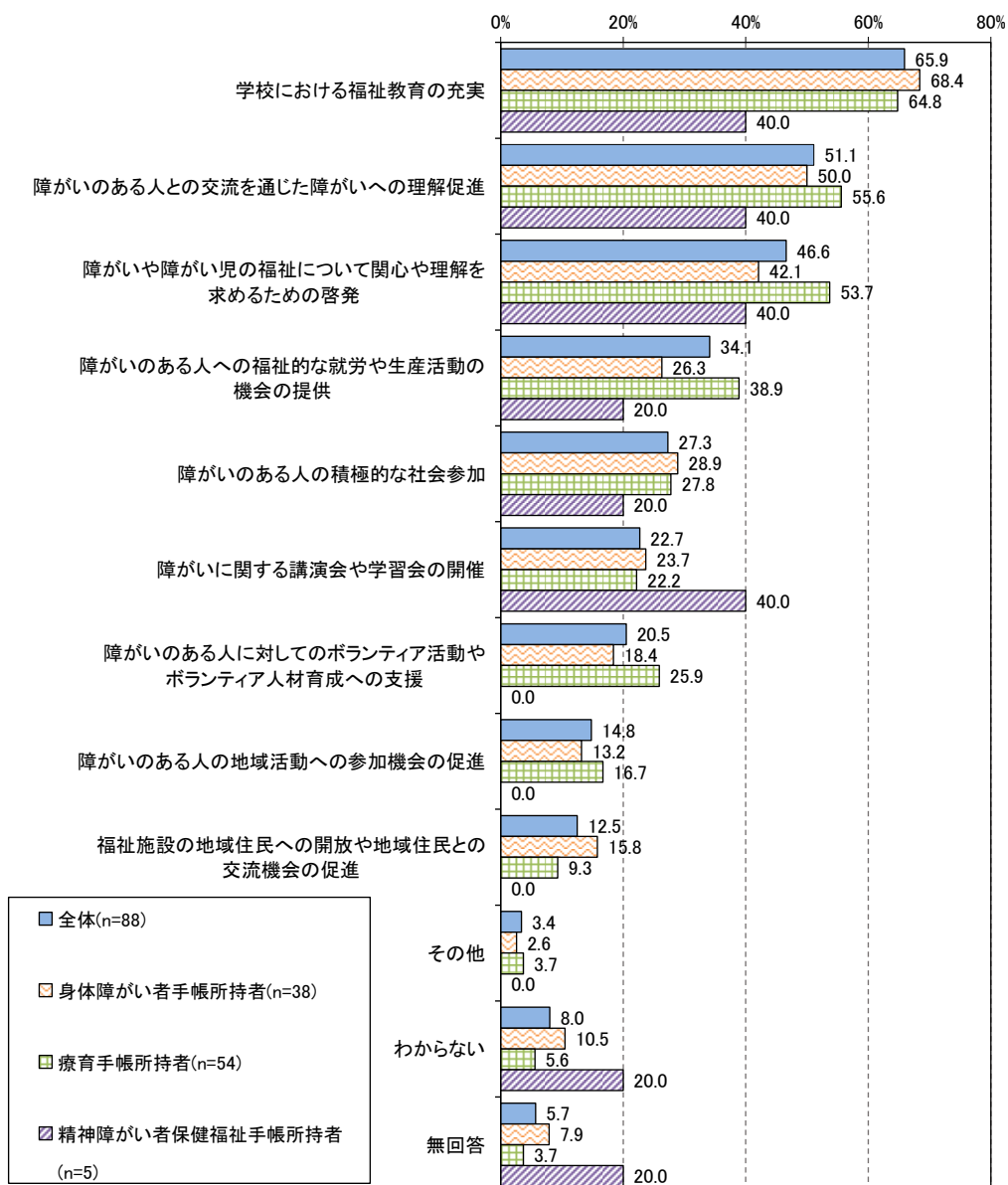
主に世話をしてくれる方の年齢を尋ねると、全体では「60～69歳」が21.5%で最も多く、以下、「50～59歳」が16.9%、「70～79歳」が10.0%、「40～49歳」が6.6%、「80歳以上」が4.5%などと続いています。

障がい別にみると、身体障がい者手帳所持者では「60～69歳」、療育手帳所持者「50～59歳」と「60～69歳」、精神障がい者保健福祉手帳所持者では「60～69歳」と「70～79歳」が最も多くなっています。

(1) 障がい者への地域の理解を深めるために必要なこと

障がい児

問33 あなたは、周囲が障がいのある方を理解するために、何が重要だと感じていますか。  
(あてはまるものすべてに○)



周囲が障がいのある方を理解するために必要なことでは、全体では「学校における福祉教育の充実」が65.9%で最も多く、以下、「障がいのある人との交流を通じた障がいへの理解促進」が51.1%、「障がいや障がい児の福祉について関心や理解を求めるとの啓発」が46.6%、「障がいのある人への福祉的な就労や生産活動の機会の提供」が34.1%、「障がいのある人の積極的な社会参加」が27.3%などと続いています。

障がい別にみると、身体障がい者手帳所持者と療育手帳所持者では「学校における福祉教育の充実」、精神障がい者保健福祉手帳所持者では「学校における福祉教育の充実」「障がいのある人との交流を通じた障がいへの理解促進」「障がいや障がい児の福祉について関心や理解を求めるとの啓発」「障がいに関する講演会や学習会の開催」が同率で最も多くなっています。

花巻市  
障がい福祉に関するアンケート調査  
調査結果報告書（抜粋版）

---

令和3年3月

発行：花巻市

企画・編集：花巻市 健康福祉部 障がい福祉課

---